

2020/01/19

11:20～11:50

Local 土木屋

1. 受験地はどちらでしたか。  
(ア)〇〇です。 (試験官が別の受験者の出願票を見ており勘違い質問)
2. 業務経歴を総監の視点で説明してください。  
(ア)学校卒業から担当者・係長・課長補佐での業務について説明
3. 市町村合併を経験されたようですが、合併の際に業務において考慮した事項は。  
(ア)市と村の合併であったが、建設事業において基本的には手段の違いはない。  
(イ)細部：設計書審査や検査に差異があり、事前に双方の情報を出し合い、すりあわせを行った。  
(ウ)旧市の手順に合わせた。旧村の職員は不慣れであったため、ワークフローを作成し配布した。混乱は一時で解消した。
4. 合併後に業務内容は変わりましたか。  
(ア)旧村は多様な業務を広範囲に行っていた。広く薄い業務。  
(イ)市は部門（都市計画、上下水道、道路管理、建設）ごとに担当が分かれており、専門的で深い業務を行っている。
5. 市役所に技術士は何名いますか。  
(ア)私だけである。1名。
6. あなたに総監資格が必要な理由（受験動機）を教えてください。  
(ア)発注者として請負者・受託者に適正な管理をさせて品質確保を行う必要がある。そのために必要な技術が総合監理技術である。組織の内外に、市民にもそういった能力があることを証明する必要があり、看板としての資格が欲しいと考えた。
7. 部下の教育方法について具体的に説明してください。  
(ア)起案や業務書類が回議されてきた際に、技術的な内容の質問を行ったり、メモを添付して回答を求めたりしている。理解度を確認するようにしている。
8. OJTのような説明がありましたが、通常書類チェックであり誰もが行うことでは。  
(ア)業務執行上の質問ではなく、技術的な理解度の確認を行っている。  
(イ)これ以外に Off-JT も適宜組み合わせで行っている。  
(ウ)橋梁塗装修繕工事での事例で説明。
9. 業務詳細について総監の視点で説明してください。  
(ア)〇〇公園（×ha）の一角に、〇〇（〇〇㎡）を整備する工事
  - ① 〇〇跡地に Pca 擁壁・現場打ち擁壁で外構を構築し、内部に盛土を行った後、現場打ちコンクリートで〇〇を構築する工事。
  - ② 〇〇課の課長補佐として、業務計画策定、指導、監理を担当した。  
(イ)年度途中で他課から依頼された工事。補助金が繰越事業（局保留予算）であり、次年

度からは供用開始させる必要があったが、設計のノウハウがなく設計完了が遅れ、工事発注が1月となったため、約4週間の工程短縮が必要になった。

① 工程管理（短縮）が最重要管理項目。手段は「作業員の増員と時間外作業」の実施。

② しかしその対策により、2次リスクとして労災事故等の発生や、周辺家屋の環境悪化と苦情発生が考えられたため、それらの対策も含めて実施させた。

(ウ) これらの対策により工期内に工事を完成でき、施設供用も予定どおり開始できた。

1 0. 業務の段取りが悪くて遅れたように思えますが。

(ア) 年度の途中で、繰り越された交付金を別の課が申請し、6月補正で予算化された。そのため7月が業務の開始時期となった。

1 1. 国の予算が繰り越された補助金なんてあるのか。

(ア) いわゆる「局保留」予算であったと記憶している。局は〇〇地方整備局。

1 2. 安全管理手段の「監視強化」や「照明増強」は請負者が考えることでは。

(ア) 具体的な内容は請負者が施工計画書に記述した。私はその内容が適正か確認した。

1 3. 社会環境管理の内容を説明してください。

(ア) 低騒音型機械の使用と、機械作業時間を20時以降原則禁止とした。

1 4. 低騒音型機械を使用するのは当たり前の話ではないのか。他にはないの。官民境界線で騒音測定を行ったのか。

(ア) 低騒音型機械の使用は大原則である。機械使用時間を制限して騒音抑制に努めたことを説明したい。騒音測定までは実施していない。

1 5. 工事発注後直ちに行った事はなかったのか。

(ア) プレキャスト擁壁の在庫確認、確保を行わせた。製造に時間がかかるため。

1 6. 工程確保手段の「増員」や「作業時間延長」は請負者が考えることでは。それにより費用は増加するはずだが、どう対応したのか。

(ア) 具体的な作業内容は請負者が作成した。

(イ) 費用については、時間外割増対象となる作業を選定し、増加分の試算を行った。

(ウ) 請負者と協議したが、工期厳守を条件として請け負っているので増加は不要との回答があり、費用計上は行わなかった。

1 7. 請負者が不利となる「片務契約」と受け取る。総監技術士ならそのような管理は行わない。請負者にもし技術士・総監技術士がいたら、当然考慮する事項である。

(ア) 片務契約とならないよう、協議を行ったつもりである（補足・追加説明はできず）。

1 8. 詳細業務以外で、情報管理と社会環境管理の事例について説明してください。

(ア) 電子化された業務データの体系的監理と、ルール通り運用されているか定期的な確認を行うことを説明。（情報の保管だけでなく、伝達方法も説明したらよかった）

(イ) 社会環境管理については、河川（四万十川）の流域で業務・工事を行うことが多く、汚濁防止や生態系の保全に留意していることを説明。

以上で終了